

# 岡崎市 環境まちづくり 市民会議

会員募集中!



## 自然部会

里山里川づくり  
遊休農地の再利用など  
全4プロジェクト

## ライフスタイル部会

地産地消の推進  
雨水の利用など  
全8プロジェクト

## 交通部会

エコドライブの推進  
自転車利用など  
全5プロジェクト

市民・事業者・行政の3者が協働して岡崎市環境基本計画市民協働プロジェクトを  
実行しています。

3つの部会があなたの参加をお待ちしています。  
詳しくは市ホームページ又は電話でお問合せください。

事務局：岡崎市環境部環境総務課地球温暖化対策班 TEL(0564)23-6685  
E-mail [ondankataisaku@city.okazaki.aichi.jp](mailto:ondankataisaku@city.okazaki.aichi.jp)  
URL <http://www.city.okazaki.aichi.jp>

発行日 平成23年2月発行

発行/岡崎市 企画編集/岡崎市環境部環境総務課総務班  
〒444-8601 岡崎市十王町2丁目9番地

連絡(代表) 環境総務課/TEL(0564)23-6207 FAX(0564)23-6536  
環境保全課/TEL(0564)23-6194  
自然共生課/TEL(0564)23-6188  
廃棄物対策課/TEL(0564)23-6871  
ごみ対策課/TEL(0564)23-6530  
E-mail [kankyosomu@city.okazaki.aichi.jp](mailto:kankyosomu@city.okazaki.aichi.jp)

平成22年度版

# 岡崎市の環境

岡崎市環境基本条例に基づく平成21年度分報告書



自然とふれあい、魅力的な自由時間をすごせる  
環境共生都市をめざして

# 岡崎市環境基本計画とは

豊かな自然や歴史を将来に引き継ぎ、だれもが暮らしてみたいと感じる快適なまちにしていくため、市民、事業者、市が協力して環境に配慮した施策や行動を推進していくことを目的としています。

将来に向けたよりよい環境づくりの目標や行動を長期的な視野に立って示している計画です。

岡崎市の将来に  
素敵な環境を贈るために

## 望ましい環境像 望ましい環境像の下5つの環境目標があります

### 望ましい環境像

自然とふれあい、  
魅力的な自由時間を過ごせる  
「環境共生都市 岡崎」

### 環境目標

- 水と緑豊かな自然とふれあえるまちに
- 良好な生活環境が確保されるまちに
- 歴史と文化を育む風格あるまちに
- 地球環境に配慮するまちに
- 環境を考え実践するまちに

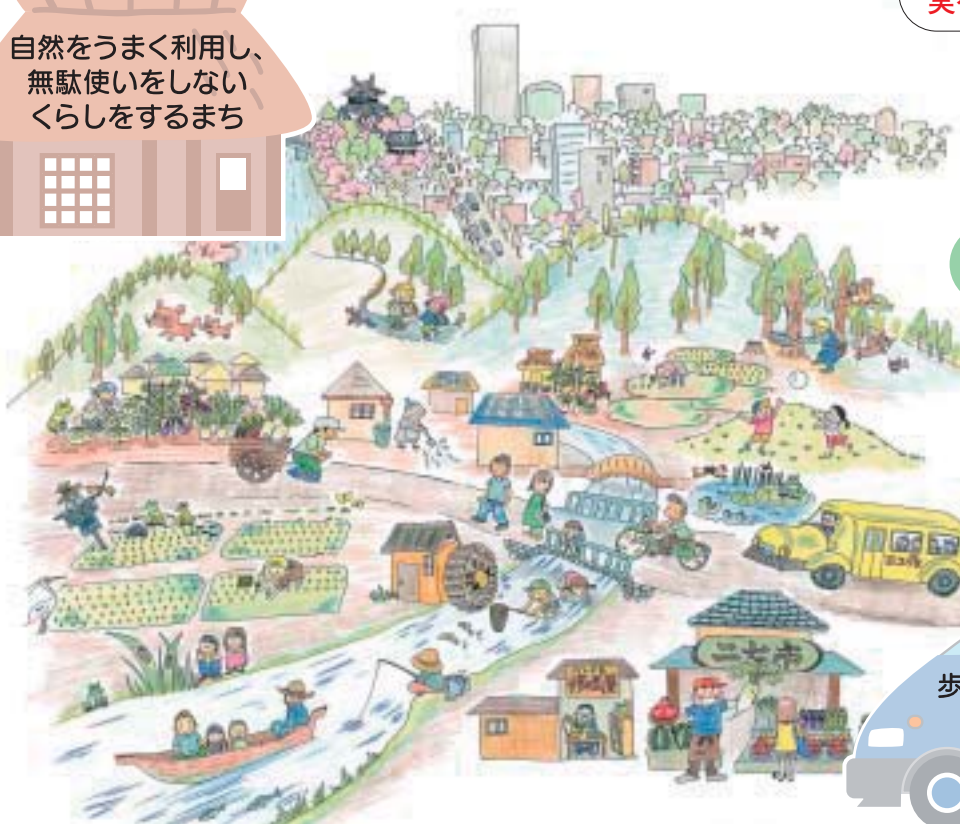
そして私たち市民が考える  
将来の岡崎市は

目標達成のために市民協働  
プロジェクトと市の施策を  
実行していきます。

緑豊かな森や  
きれいな川が  
守られるまち

歩き、自転車、バスで  
移動することが  
便利なまち

自然をうまく利用し、  
無駄使いをしない  
くらしをするまち

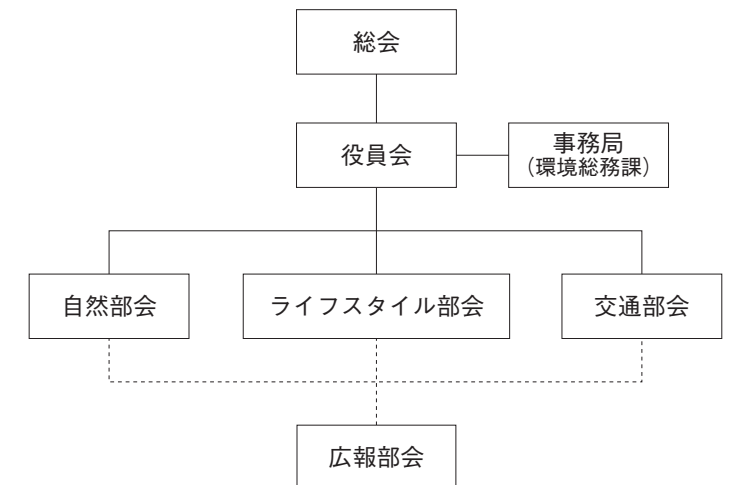


## 岡崎市環境基本計画市民協働プロジェクト推進状況

平成21年7月24日、環境への負荷の少ないライフスタイルを推進し、良好な環境の保全及び創造の実現を目指す環境基本計画に基づき、市民・事業者・岡崎市が協働して、プロジェクト等を推進し、環境共生都市の実現に貢献するために、「岡崎市環境まちづくり市民会議」(会員数58名)を設立しました。

「岡崎市環境まちづくり市民会議」により平成21年度市民協働プロジェクトは下記のとおり推進されました。なお、記載されていないプロジェクトについては次年度以降順次実行される予定です。

### 【環境まちづくり市民会議組織図】



【環境まちづくり市民会議会員の皆さま】

### ■【自然プロジェクトNo.1】里山を我が家に持ち帰ろう 一家一絆運動

里山保全活動等を実施するモデル地区(里山)を「おおだの森」として選定しました。事業計画(案)を作成し、おおだの森保護事業者会(山留舞会)及び市と協議しました。



### ■【自然プロジェクトNo.2】遊休農地再利用のための「お見合い大作戦」

モデル事業実施場所(遊休農地)を調査し、仁木町周辺を実施区域として選定しました。実施区域内に市民農園を開設するため、開設希望者(開設地)を検索し、協定締結に向けて協議を実施しました。「環境にも人にもやさしい野菜づくり講座」を平成21年11月14日、平成22年2月13日の2回岩津市民センターで開催しました。

平成21年 9月 4日	遊休農地現地調査
平成21年 9月24日	遊休農地現地調査
平成21年12月10日	遊休農地現地調査
平成21年12月10日～平成22年 3月31日	協定締結協議

環境にも人にもやさしい野菜づくり講座		
平成21年11月14日	一般参加者延59名	スタッフ12名
平成22年 2月13日	一般参加者延51名	スタッフ13名



■【自然プロジェクトNo.3】フォトアートコンテスト

再発見 環境フォトコンテスト実施要領等を策定し、コンテストを実施しました。平成21年10月作品募集を実施し、平成21年11月7日・8日に開催された秋の市民まつり「環境展」会場で来場市民約1000名に投票をしていただき、受賞作品を決定しました。平成22年2月20日イオンセントラルコートで開催された環境フェアの中で全作品の展示と表彰式を実施しました。



※受賞作品

- 応募作品 52作品
- 応募人数 21名
- 受賞者 6名 (大賞1名・優秀賞5名)

■【自然プロジェクトNo.4】わたしたちの里川づくり

市民一斉水環境調査・水質ボランティア調査・乙川サミット・川の健康診断調査を実施しました。アダプトプログラムによる河川環境保全活動について検討しました。

- 市民一斉水環境調査 平成21年 8月 9日 市内101地点
- 水質ボランティア調査 平成21年 2月、5月、8月、11月実施 32名
- 乙川サミット 平成21年 7月30日 図書館交流プラザ
- 川の健康診断調査 平成21年 5月～11月 河川300か所、ため池150か所

■【ライフスタイルプロジェクトNo.1】低炭素な「食と農」プロジェクト

「食と農」に関する現状調査を実施し、地産地消を啓発するためパネル及びのぼり旗を作成しました。パネル及びのぼり旗は秋の市民まつり会場等に設置し地産地消の啓発活動を実施しました。飲食店での洗い箸の使用を推進するため「洗い箸をしよう」キャンペーンを実施するため、アンケート調査を実施しました。岡崎市地球温暖化防止隊と提携しエコクッキング(講座)を開催しました。

- 地産地消啓発活動 (パネル・のぼり旗設置)
- 平成21年11月 7日・8日 菅生川河川敷「秋の市民まつり」会場
- 平成21年11月28日・29日 中央総合公園「食育メッセ」会場



- 「洗い箸をしよう」キャンペーンアンケート調査
- 平成21年12月 9日 食品衛生協会会員対象に実施

- エコクッキング開催 (講習会含む)
- 平成21年 9月 1日 福社会館料理室 参加者 7名
- 平成21年 9月15日 リブラ調理室 参加者19名
- 平成22年 1月 7日 げんき館調理室 参加者 6名
- 平成22年 1月21日 げんき館調理室 参加者10名

■【ライフスタイルプロジェクトNo.4】岡崎天水桶を広めよう

雨水を水資源として有効活用するため、岡崎市水道局から提供された非常時給水用ドラム缶を22個修繕し、雨水貯留施設としてモニター募集し(一般市民等)、貸出しを実施しました。



- 平成21年10月10日 天水桶修繕 22セット
- 平成21年11月16日～12月15日 天水桶モニター募集 申込者116名
- 平成21年12月19日 モニター決定抽選会開催
- 平成22年 1月26日～ 2月16日 天水桶配送 22セット

■【交通プロジェクトNo.2】未来につなごう公共交通

公共交通を含む交通全般に係るアンケート調査を平成21年10月4日開催の「ぶらっきょりん」参加者に対して実施しました。

アンケート回収数 41枚



■【交通プロジェクトNo.3】自転車乗りん

自転車の利用促進を図るため、自転車販売店を一部調査しました。

■【交通プロジェクトNo.4】ぶらっきょりん

ぶらっきょりん実施モデル地区を電車通り沿線(名鉄東岡崎南口～JR岡崎駅)と選定し、「歩くこと」の再発見と再認識、車から歩きへのシフトを啓発するためにイベント(イベント名称:ぶらっきょりん)を平成21年10月4日開催しました。

- 一般市民参加者 55名
- スタッフ参加者 16名



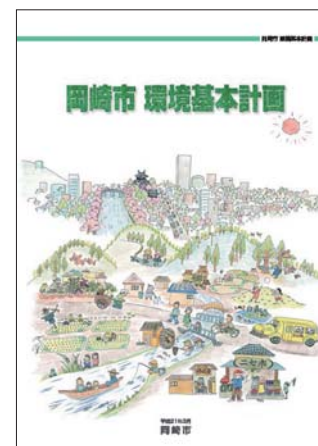
■【交通プロジェクトNo.5】車乗るならエコドライブ

エコドライブ普及のための組織づくりを検討しました。

■その他

環境基本計画と市民協働プロジェクトの周知のため、平成22年2月20日環境フェアにおいて、パネル等の展示を実施しました。

【平成22年度岡崎市環境まちづくり市民会議活動予定】



プロジェクト名	活動内容
里山を我が家に持ち帰ろう!! 一家一絆運動	モデル地区を選定し、市民に里山保全活動への参加を呼びかけ保全活動を実施する。岡崎市産の間伐材を活用した木工教室を開催し、間伐材の有益性等を周知すると共に利用普及を推進する。
遊休農地再利用のための「お見合い大作戦」!	モデル地区を選定し、市民農園を開設運営する。市民農園において講座等を開催する。
フォトアートコンテスト	フォトアートコンテスト実施要領等を策定し、フォトアートコンテストを実施する。コンテスト実施後には入選発表及び表彰式を開催する。メールマガジンの配信等について検討する。
わたしたちの里川づくり	市民一斉水環境調査及び乙川サミットを継続実施する。また、水辺ふれあいマップの作成等を実施する。
低炭素な「食と農」プロジェクト	飲食店での洗い箸の使用を推進するため「洗い箸をしよう」キャンペーンを実施する。「地元の農産物を食べて温暖化を止めよう」キャンペーンを実施する。岡崎市地球温暖化防止隊と提携しエコクッキング(講座)を開催する。
岡崎天水桶を広めよう!	21年度に貸出しを実施した雨水貯留施設について、モニターから調査書の回収を行い雨水利用状況を分析する。天水桶の普及啓発活動の一環として天水桶のアイデア募集を実施する。
みんなでやろまい! エコ通勤	公共交通の利用促進を図るため、エコ通勤を奨励している市内企業を調査し、アンケート等を実施する。
ぶらっきょりん	ぶらっきょりん実施モデル地区を選定し、イベントを開催する。

環境施策及び環境活動の状況一覧表

岡崎市環境基本計画(第2章第4節)に基づき実施された、環境施策及び環境活動を公表します。

Table with 5 columns: 環境目標, 具体的な取り組み項目, 担当課, 平成21年度の取り組みの状況(概要), 平成22年度以降の取り組み予定. Includes rows for forest conservation, natural environment, and public facility greenery.

Table with 5 columns: 環境目標, 具体的な取り組み項目, 担当課, 平成21年度の取り組みの状況(概要), 平成22年度以降の取り組み予定. Includes rows for agriculture, natural environment, and water resource management.

Table with columns: 環境目標, 具体的な取り組み項目, 担当課, 平成21年度の取り組みの状況(概要), 平成22年度以降の取り組み予定. Contains various environmental action plans such as groundwater protection, air pollution reduction, noise control, and soil contamination prevention.

Table with columns: 環境目標, 具体的な取り組み項目, 担当課, 平成21年度の取り組みの状況(概要), 平成22年度以降の取り組み予定. Continues environmental action plans including noise prevention, earthquake safety, and cultural heritage preservation.

環境目標	具体的な取り組み項目	担当課	平成21年度の取り組みの状況(概要)	平成22年度以降の取り組み予定	
	●個性あるまちの形成を推進します。				
	景観計画の策定及び推進	都市計画課	景観形成重点地区候補地として、藤川、八帖地区においてワークショップを開催し、参加者より提案された景観形成方針について、地区住民へのアンケート調査を行いました。	平成22年度以降も継続し、景観計画策定及び関係条例制定に向け業務を実施します。	
	大規模な建設行為に対する景観誘導	都市計画課	大規模工作物設置行為届出書を5件処理しました。	平成22年度継続実施します。	
	都市景観環境指定建築物等の指定と保存	都市計画課	未実施	景観計画策定後、法の規定による「景観重要建築物」としての指定を検討します。	
		区画整理課	駅前広場、美合線(市道部)で実施しました。	平成22年度以降、美合線(県道部)岡崎駅平戸橋線、10-1号線、8-5号線、8-6号線、羽根若松線、岡川線での実施を予定しています。	
	●快適なまちの形成を推進します。				
	電線類の地中化の推進	都市計画課	岡崎駅東土地区画整理事業区域内の2路線において実施しました。	平成22年度継続実施します。	
	●快適なまちの形成を推進します。				
	放置自転車対策の推進	安全安心課	自転車駐車場整備事業としてJR岡崎駅東口自転車駐車場を移転新設しました。放置自転車撤去事業を継続して実施し、1,743台を撤去しました。	駅の利用者数や自転車等駐車場の利用台数等の状況に応じ、自転車等駐車場の確保を目指します。放置自転車撤去事業を継続実施します。	
	●快適なまちの形成を推進します。				
	公共サインの整備	区画整理課	駅前広場を整備しました。	平成22年度以降、歩行者重視道路の整備を予定しています。	
	●快適なまちの形成を推進します。				
	広告や看板の規制	都市計画課	屋外広告物許可申請時に指導・景観誘導を行いました。平成21年度許可申請件数 320件 簡易違反広告物除却数 453件	平成22年度継続実施します。	
	●環境美化対策を推進します。				
	ボイ捨て防止の啓発	環境保全課	随時、看板等を町内へ配布しました。	平成22年度以降も継続実施します。	
	土地の適正管理の指導	環境保全課	随時、現地調査を行い、土地の管理者に対し指導しました。	平成22年度以降も継続実施します。	
	放置自動車処理の推進	環境保全課	随時、現地調査を行い、車の所有者等に撤去等を指導しました。	平成22年度以降も継続実施します。	
		道路維持課	放置自動車の調査・処理を実施しました。	平成22年度継続実施を予定しています。	
	●良好な市街地の形成を推進します。				
	コンパクトで地域にふさわしい都市構造の推進	都市計画課	都市計画に関する基本的な方針である都市計画マスタープランを平成22年2月に策定しました。	平成22年度以降、都市計画マスタープランを踏まえ、既存市街地を中心に、都市環境と自然環境が調和した都市構造を目指します。	
	用途地域の適正配置と見直し	都市計画課	都市計画マスタープランを踏まえ、まちづくり構想図、現状の用途地域、土地利用現況を比較し、用途地域の適正配置について検討しました。	平成22年度以降も都市計画マスタープランを踏まえ、良好な都市環境を図るため用途地域の見直し作業を進めていきます。	
	地区計画に基づく良好なまちの形成	都市計画課	田口地区計画を都市計画決定しました。	平成22年度以降も地区の特性に応じた良好な住環境の維持・保全を図るため地区計画を定めています。	
	高度地区の指定	都市計画課	良好な住環境の保全を目指し、建築物の高さ制限の指定について検討しました。	平成22年度以降も住居系市街地においては市街地の環境を維持し、また商業系市街地においてはより高度な土地利用を促すため、建築物の高さの最高限度を定めています。	
	●避難体制を整備します。				
	避難場所の確保と整備	防災危機管理課	市内小中学校等98箇所避難所設置しました。	平成22年度継続実施します。	
	防災機能を持つ施設整備	防災危機管理課	各小学校区ごとに地域防災連絡員、避難所ごとに避難所運営担当者を配置しました。	各避難所施設に防災無線設置していきます。	
	●災害に備えます。				
	災害備蓄倉庫の整備	防災危機管理課	市内小学校36箇所に防災備蓄倉庫を整備しました。	平成22年度についても小学校6箇所の防災備蓄倉庫整備を予定しています。	
	情報伝達体制の整備	防災危機管理課	防災ラジオ、エリアメール等情報伝達手段を拡充しました。	平成22年6月に浸水警報装置の運用を開始します。	
	●災害を未然に防止します。				
	橋りょう耐震補強の実施	道路建設課	40橋で実施しました。	平成22年度継続実施します。	
	砂防事業の推進	河川課	13箇所継続実施しました。	平成22年度12箇所の継続実施を県に要望します。	
	治山事業の推進	林務課	12箇所採択しました。地区要望を県に要望申請しました。	地区からの要望を受け県林務課に要望申請します。	
4 地球環境に配慮するまちに	●地球温暖化対策を推進します。				
	地球温暖化対策実行計画の策定	環境総務課	未実施	平成22年度策定を予定しています。	
	地域の温室効果ガス排出量の調査システム構築	環境総務課	システムの構築が完了しました。	平成22年度以降はシステムを用いて継続的に温室効果ガスの排出量を集計していきます。	
	地域協議会の設立・支援	環境総務課	平成18年6月に任意団体として設立した岡崎市地球温暖化防止隊が平成20年12月地域協議会として認定されました。設立以来、市は活動資金を補助し、また、団体の事務局として活動を支援しています。	平成22年度以降も継続実施します。	
	地域温暖化防止推進センター、地球温暖化推進員制度の検討	環境総務課	地域温暖化防止推進センターの設置等について検討しました。(平成22年3月31日時点では設置等しない方針)	平成22年度以降必要に応じて再検討します。	
	●省資源・省エネルギー対策を推進します。				
	環境家計簿による指導と啓発	環境総務課	環境シンポジウム等イベントにて環境家計簿を配布しました。また、出前講座において環境家計簿を活用した二酸化炭素排出削減を指導・啓発しました。	平成22年度以降も継続実施します。	
	省エネルギー製品に関する情報の提供と支援	環境総務課	情報収集に努め市民からの問い合わせに対して随時対応しています。補助等の支援については検討中です。	平成22年度情報提供は継続実施します。支援は引き続き検討していきます。	
	住宅施設等における高気密、高断熱化建築の指導と啓発	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。	
	燃料使用の効率化と高効率燃料への転換の指導と啓発	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。	
	ISO14001、エコアクション21、岡崎版事業所環境ISOなど環境マネジメントシステムの普及促進	環境総務課	ISO14001認証取得を目指す事業者等に対して指導・アドバイスを実施しました。	平成22年度以降も継続実施します。	
	省エネルギー診断の推進	環境総務課	平成19年度から(財)省エネルギーセンターの実施する省エネルギー診断を順次公共施設で受診しています。【受診施設数17施設(累計)】	平成22年度以降継続受診していきます。	

環境目標	具体的な取り組み項目	担当課	平成21年度の取り組みの状況(概要)	平成22年度以降の取り組み予定
	●未利用エネルギーの有効利用を促進します。			
	コージェネレーションシステム・燃料電池等の導入の推進	環境総務課	家庭用燃料電池コージェネレーションシステムに対する補助事業を実施しました。【補助実績2台】	平成22年度以降も継続実施します。
	自然・未利用エネルギーの利用の推進	環境総務課	事業者の設置する地中熱利用施設等について支援する環境対策融資あっせん制度を創設しました。	平成22年度以降制度の周知を図り、事業者の制度活用を推進します。
	ごみ処理により発生するエネルギーの有効利用	ごみ対策課	八帖クリーンセンター及び中央クリーンセンターにて発電をして利用しています。(八帖2号炉は未実施)	平成22年度は八帖クリーンセンター、中央クリーンセンターにて継続実施し、平成23年度以降は中央クリーンセンターに替わり新一般廃棄物中間処理施設にて発電を予定しています。
	深夜電力等の有効利用の指導と要請	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。
	バイオマスタウン構想の策定及びバイオマスエネルギーの活用支援	商工労政課	ものづくり推進協議会でのバイオマスへの取組を支援しました。	平成22年度継続支援します。
	●人と環境にやさしい交通システムを推進します。			
	公共交通網の整備の推進	政策推進課	利便性の高いバスネットワークの構築に向け交通結節点を結ぶ基幹路線バスを整備するとともに、山間部の交通空白地域において乗合タクシーの導入に向けた実証運行を行いました。	平成22年度以降も運行を継続するとともに、より良いものへと改善を図っていきます。
	公共交通機関の利用促進	政策推進課	公共交通マップ・利用啓発イベント「公共交通に親しむ日」、モビリティマネジメント施策の実施を通して利用促進を図りました。	平成22年度以降も継続実施します。
	自転車の利用促進	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。
		政策推進課	モビリティマネジメント施策の実施を通して、自動車利用から自転車利用等への行動変化のための意識啓発を行いました。	平成22年度以降も継続実施します。
	自転車安心安全に走れる道路の整備	道路維持課	市道明代橋線・市道伝馬町線・市道日名橋線の歩車道整備を行いました。	平成22年度市道竜美丘5号線を整備します。市道日名橋線は継続整備します。
		道路建設課	延長489.0mを供用しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	●環境に配慮した自動車使用の促進を図ります。			
	アイドリングストップ運動の推進	環境総務課	公共施設駐車場(500㎡以上)について、アイドリングストップの周知看板を設置しました。また、平成21年度、環境関連イベント等開催時には、会場駐車場にのぼり旗を設置し、アイドリングストップを啓発しました。	新設公共施設駐車場について看板を設置します。イベント等の会場においてアイドリングストップの啓発活動を推進します。
	低公害車、低燃費車の普及促進	環境総務課	平成15年度から低公害車購入に係る補助事業を実施しました。【補助実績件数1187件(累計)】	平成22年度電気自動車及びプラグインハイブリッド自動車に対する補助を実施します。
	エコドライブの普及促進	環境総務課	平成20年度からエコドライブ技術の取得を進めるため、エコドライブ推進(燃費計貸出し)事業を実施しています。	平成22年度以降も継続実施します。
	●二酸化炭素吸収源の増大を図ります。			
	市街地での緑化の推進	公園緑地課	4月と11月に緑化木の無料配布(計1200本)を行いました。	平成22年度以降も継続実施します。
	健全な森林の整備・保全等の推進	林務課	森林整備ビジョンの策定(基礎資料)しました。	森林整備ビジョン策定および施策を実施します。
	地元産木材利用促進	林務課	県産材利用促進会議への出席及び発言しました。	平成22年度以降も継続します。
	里山環境の整備促進	自然共生課	おかざき自然体験の森の適正な維持管理を実施しました。	平成22年度継続実施します。
	●フロン回収とノンフロン製品の普及を推進します。			
	使用済自動車のフロン回収事業の推進	廃棄物対策課	フロン類回収登録業者へ立入を行い、適正処理がなされるよう指導啓発を実施しました。	平成22年度継続実施します。
	グリーン購入の推進	環境総務課	平成14年4月に策定した「岡崎市グリーン調達方針」に基づき、ノンフロン製品を含む環境に配慮した物品等の調達を推進しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	●酸性雨のモニタリング調査を実施します。			
	環境保全委員による酸性雨調査の実施	環境保全課	15人の環境保全委員により、バックテスト(簡易検査)を用いた酸性雨調査を年間を通じて実施しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	●原因物質の排出抑制を指導します。			
	発生源に対する抑制削減の指導	環境保全課	大気汚染防止法、県条例、Nox-PM法により、排出源となる施設に対して、監視及び啓発を実施しました。	平成22年度継続実施します。また愛知県とともに「貨物自動車等の車種規制非適合車の使用抑制等に関する要綱」を策定、運用します。
	●熱帯材を使用した製品の使用を減らします。			
	熱帯材の使用削減の促進	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。
	過剰包装の見直しの指導	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。
	再生紙使用の啓発	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。
		ごみ対策課	園児を対象としたエコプロジェクト、児童・生徒を対象とした環境学習、地域住民を対象とした説明会にて実施しました。平成21年度はエコプロ15件、環境学習7件、説明会19件実施しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	●ごみの減量を推進します。			
	ごみの発生抑制の指導、啓発の推進	ごみ対策課	学校・地域住民を対象とした説明会にて、発生抑制、啓発の推進を行いました。環境学習及び説明会は合計26件実施しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	ごみ処理手数料の見直し	ごみ対策課	近隣市町村の状況調査とごみ処理原価から適正価格についての検討を行いました。	平成22年度環境審議会へ諮問を行い、12月議会で条例改正案を提出します。
	過剰包装、過剰広告の見直しの推進	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。
	レジ袋の有料化または廃止	環境総務課	環境を話し合う会において、意見交換を実施しました。【9会場延べ247名参加】	有料化については平成21年3月より開始しており、平成22年度以降も参加店舗を募集していきます。
	ごみ減量推進員の育成・指導	ごみ対策課	リサイクルステーションにおいて分別指導を実施しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	●ごみの分別収集、回収の徹底を図ります。			
	分別品目の細分化によるリサイクル対象品目の拡充と分別収集の徹底	ごみ対策課	硬質プラスチックの分別方法の検討をしました。	平成22年度硬質プラスチックの分別方法を不燃から可燃へ変更します。
	ペットボトル等の店頭回収の推進	ごみ対策課	スチール製コンテナからネットコンテナに変更し、店頭回収場所での作業効率の改善を検討しました。	平成22年度以降、順次スチール製コンテナからネットコンテナに変更を実施していきます。
	資源回収活動の支援と推進	ごみ対策課	地域の各種団体が回収する新聞・雑誌・ダンボール・牛乳パック・古着・アルミ缶の回収量に応じて報奨金を支給しました。平成21年度は集団回収は376団体/1,639回/11,337t、ミニ拠点回収7団体/85回/132tの実績がありました。	平成22年度以降も継続支援します。

環境目標	具体的な取り組み項目	担当課	平成21年度の取り組みの状況(概要)	平成22年度以降の取り組み予定
5 環境を 考え実践 するまでに	<b>●ごみの適正処理を指導します。</b>			
	不法投棄者への指導	ごみ対策課	不適正排出者が判明した場合に文書等による指導を行いました。	平成22年度以降も継続実施します。
		環境保全課	岡崎警察署等と連携し、不法投棄物の中の証拠物の調査を実施しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	ごみ処理業者に対する指導・監視	廃棄物対策課	廃棄物処分業者へ立入を行い、適正処理がなされるよう指導監視を実施しました。	平成22年度継続実施します。
		ごみ対策課	クリーンセンターにおいて搬入検査を実施しました。	平成22年度以降も継続実施します。
		八柱クリーンセンター 中央クリーンセンター		
	不適正排出者への指導・啓発	ごみ対策課	不適正排出者が判明した場合に文書等による指導を行いました。	平成22年度以降も継続実施します。
	不適正処分の指導・啓発	ごみ対策課	行為者が特定できた場合に文書等による指導を行いました。	平成22年度以降も継続実施します。
		環境保全課	職員による現地調査及び指導を実施しました。シルバー人材センターへのパトロール委託、職員による夜間パトロールを実施しました。ごみ・廃棄物の野焼き行為については、廃棄物対策課と連携し、指導を実施しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	<b>●リサイクルを推進します。</b>			
	生ごみの堆肥化の推進	ごみ対策課	生ごみ処理機購入補助金を交付しました。広報資料へ掲載しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	枝・落葉の堆肥化の推進	ごみ対策課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。
	再使用、再資源化しやすい製品の開発の指導	ごみ対策課	未実施	平成22年度以降再使用、再資源化しやすい製品の開発の指導の取り組みについて検討します。
	リサイクルに関する啓発の強化	ごみ対策課	園児を対象としたエコプロジェクト、児童・生徒を対象とした環境学習、地域住民を対象とした説明会にて実施しました。エコプロ15件、環境学習7件、説明会19件の実績がありました。	平成22年度以降も継続実施します。
	<b>●有効利用を推進します。</b>			
リサイクルに関する情報提供の推進	ごみ対策課	園児を対象としたエコプロジェクト、児童・生徒を対象とした環境学習、地域住民を対象とした説明会にて実施しました。エコプロ15件、環境学習7件、説明会19件の実績がありました。	平成22年度以降も継続実施します。	
リサイクル品の購入促進の指導と啓発	環境総務課	平成14年4月に策定した「岡崎市グリーン調達方針」に基づき、リサイクル品を含む環境に配慮した物品等の調達を推進しました。	平成22年度以降も継続実施します。	
	ごみ対策課	園児を対象としたエコプロジェクト、児童・生徒を対象とした環境学習、地域住民を対象とした説明会にて実施しました。エコプロ15件、環境学習7件、説明会19件の実績がありました。	平成22年度以降も継続実施します。	
リユース品に関するイベントの開催	ごみ対策課	毎月第4日曜日に、粗大ごみとして出された自転車、家具類を修繕、整備して販売を行なうリサイクルの日を実施しました。平成21年度は自転車238台1,139,500円、家具222台320,900円、また環境展では、19台90,500円の売上げがあり、リサイクル意識の高揚に努めました。	平成22年度以降も継続実施します。	
リサイクル品の需要ルート、需要システムの検討	ごみ対策課	未実施	平成22年度以降検討します。	
<b>●一般廃棄物処理施設を整備します。</b>				
計画的な中間処理施設の改修と建設	ごみ対策課	新一般廃棄物中間処理施設の建設工事を進めました。	平成22年度は新一般廃棄物中間処理施設建設工事の継続及び試運転を実施し、平成23年度には新施設が完成する予定です。	
計画的な最終処分場の改修と建設	ごみ対策課	未実施	平成23年度に完成する新一般廃棄物中間処理施設により、北部一般廃棄物最終処分場の延命が想定されるため、整備計画等を見直す予定です。	
<b>●産業廃棄物処理に関する指導・監視を実施します。</b>				
不法投棄に対する定期的なパトロールの実施	廃棄物対策課	不法投棄の防止及び早期発見のためパトロールを実施しました。	平成22年度継続実施します。	
排出事業者に対する産業廃棄物の適正処理の指導実施	廃棄物対策課	産業廃棄物の適正処理を行うよう指導を実施しました。	平成22年度継続実施します。	
産業廃棄物処理業者等に対する立入り検査の強化	廃棄物対策課	事業者等へ計画を立て立入を実施するとともに、必要に応じて検体等採取しました。	平成22年度も計画的に立入を実施します。	
PCB廃棄物等の適正処理の指導実施	廃棄物対策課	PCB保管事業者へ立入を行い、適正保管の維持及び早期処理を図るため指導啓発を実施しました。	平成22年度継続実施します。	
<b>●産業廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化を推進します。</b>				
環境展、講習会等での啓発活動の推進	廃棄物対策課	環境展において、浄化槽のしくみや維持管理等に関する啓発活動を実施しました。	平成22年度継続実施します。	
排出事業者への3Rに関する情報提供	廃棄物対策課	排出事業者への立入の際に、リサイクルの推進の啓発活動を実施しました。	平成22年度継続実施します。	
建設系廃棄物(建設発生残土や建設廃材等)の再資源化の推進	技術管理課	残土情報を共有し、請負業者への再資源化を義務付けました。	平成22年度以降も継続実施します。	
	建築指導課	建設リサイクル法の届出書を受理しました。	平成22年度以降も継続実施します。	
家電リサイクル法、食品リサイクル法、自動車リサイクル法等の個別リサイクル法の適正な運用を啓発	廃棄物対策課	建設部局と合同で、建設現場等の立入調査を実施しました。	平成22年度継続実施します。	
	ごみ対策課	家電4品目指定取り場所の共有化について回覧を送付し、市民周知を図りました。	平成22年度以降も継続実施します。	
	廃棄物対策課	各種リサイクル法に関する事業者への適正運用の指導及び市民等へ啓発活動を実施しました。	平成22年度継続実施します。	
3Rを推進するためのシステムづくり	廃棄物対策課	産業廃棄物の処理については広域的な移動が可能であることから当市域のみで完結する物は少ないですが、市内において廃棄物を排出する事業者や処理する事業者に対して3Rを推進するための指導啓発を実施しました。	平成22年度継続実施します。	
<b>●環境教育計画を作成します。</b>				
環境教育推進計画の作成	環境総務課	未実施	平成22年度以降策定を予定しています。	
環境教育推進計画に基づく環境教育の推進	環境総務課	未実施	平成22年度以降策定を予定しています。	
<b>●市民への環境学習を推進します。</b>				
図書館、総合検査センターにおける環境資料の整備	中央図書館	環境に関する資料の収集を行いました。	引き続き環境に関する資料の充実を図っていきます。	
	総合検査センター	啓発資料等の設置、配布を行いました。	平成22年度以降も継続実施します。	
環境家計簿の実践	環境総務課	家庭からのCO2排出量及び光熱費を知ることにより、環境配慮行動を始めるきっかけとするため、環境家計簿を配布し、実践を呼びかけました。	平成22年度以降も継続実施します。	
環境に関する学習会(環境シンポジウム、環境展、自然観察会、消費者講座、生涯学習等)の開催	環境総務課	環境シンポジウム(6/27)、環境展(11/7,11/8)、環境フェア(2/20)を開催しました。小中学生を対象とした環境教室を72回、町内会等を対象とした環境学習を25回開催しました。	平成22年度事業統合等を見直しを予定しています。	
環境学習プログラムの充実	環境総務課	学校や町内会等に対する出前講座のプログラム内容を見直し、変更を行いました。また、県の実施する出前講座の情報も小中学校に周知することにより環境学習の充実を図りました。	平成22年度以降毎年年度内容を見直ししていきます。	
おかし自然体験の森利用促進	自然共生課	おかし自然体験の森を市政だより、報道機関へPRしました。	平成22年度継続実施します。	
名木見学会の実施	公園緑地課	11月に35名を対象として見学会を実施しました。	平成22年度以降も継続実施します。	

環境目標	具体的な取り組み項目	担当課	平成21年度の取り組みの状況(概要)	平成22年度以降の取り組み予定
5 環境を 考え実践 するまでに	<b>●学校や地域などにおける環境学習を推進します。</b>			
	身近な生き物を対象にした自然観察の実施	自然共生課	おかしエコプロジェクト環境学習を保育園を対象に実施しました。	平成22年度継続実施します。
	自然や地球環境に関する環境副読本の作成と配布	環境総務課	未実施	平成22年度以降作成を予定しています。
	「学校での環境教育」の内容精査(体系的なプログラムの構築・実施)・検討	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。
	<b>●環境教育指導者を育成します。</b>			
	市民を対象とした自然体験活動リーダー養成の継続開催	自然共生課	自然遊びの達人養成講座を実施しました。	平成22年度継続実施します。
	<b>●総合検査センターの充実を図ります。</b>			
	環境学習の充実	総合検査センター	夏休み子ども教室を3回開催しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	<b>●岡崎市情報ネットワークセンターの活用を図ります。</b>			
	環境情報基盤の整備・構築	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。
	環境情報の集積と情報発信	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。
	<b>●環境学習施設の建設を推進します。</b>			
	環境学習施設の建設及び活用、運営	環境部	未実施	平成22年度以降検討します。
	<b>●環境にやさしい行動を支援します。</b>			
	環境家計簿による環境にやさしいライフスタイルの指導と支援	環境総務課	家庭からのCO2排出量及び光熱費を知ることにより、環境配慮行動を始めるきっかけとするため、環境家計簿を配布し、実践を呼びかけました。	平成22年度以降も継続実施します。
	細目ストレーナー、三角コーナー等生活排水対策の普及促進	環境保全課	平成21年度まであせん販売を実施しました。	啓発物品のあせん販売事業は廃止します。今後は環境学習などで啓発していきます。
	生垣緑化、プランター緑化、屋上緑化等に対する助成と支援	公園緑地課	生垣緑化11件、プランター緑化14件、屋上緑化等3件について補助金にて支援しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	公共交通機関、自転車等の利用の要請	政策推進課	公共交通マップ・利用啓発イベント「公共交通に親しむ日」、モビリティマネジメント施策の実施を通して利用促進を図りました。	平成22年度以降も継続実施します。
	生ごみの堆肥化の促進	ごみ対策課	生ごみ処理機購入補助金を交付しました。広報への掲載や町内会への回覧により周知しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	リサイクル活動の支援	ごみ対策課	資源回収活動、不用品情報交換登録制度を実施しました。	平成22年度以降も継続実施します。
	エコシール制度の充実	環境総務課	エコシール交付対象行動について検討し、対象行動の拡大を実施した。またイベント等において制度の周知活動を実施しました。	平成22年度以降交付対象行動の拡大等制度の充実を図りながら制度を継続します。
	<b>●省資源、省エネルギーに向けた行動を支援します。</b>			
	消費者団体の活動展開・環境学習会の開催	環境総務課	町内会や事業所等に対して環境学習会を実施しました。25回開催し、延983名が参加しました。	平成22年度継続実施します。
<b>●環境基本計画を推進します。</b>				
環境基本計画推進組織の育成・支援	環境総務課	平成21年7月環境基本計画市民協働プロジェクトを推進する「岡崎市環境まちづくり市民会議」を設立しました。市は事務局として法律面アドバイス、広報活動協力、施設利用協力、他部局調整、その他補助等を実施しました。	平成22年度継続実施します。	
	環境基本計画プロジェクト推進	環境総務課	岡崎市環境まちづくり市民会議(市民・事業者・行政の協働組織)において基本計画に定める17プロジェクトの内8プロジェクトを推進しました。	平成22年度以降未実施プロジェクトを順次実施します。
<b>●環境マネジメントを普及・啓発します。</b>				
環境管理・環境監査の普及と支援	環境総務課	市内事業者の環境監査等要望がありませんでした。	平成22年度以降事業者の要望があれば適時環境監査を実施します。	
岡崎版事業所環境ISOの普及及びISO14001等の環境マネジメントシステム構築・維持の支援	環境総務課	岡崎版事業所環境ISOの取り組み84事業所。ISO14001認証取得に係る支援を含む対策として環境対策資金融資制度を創設しました。	平成22年度以降融資制度継続を予定しています。岡崎版事業所環境ISOは平成22年度に見直しを予定しています。	
環境教育の実践への指導と啓発	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。	
<b>●事業、開発における環境配慮意識を向上させます。</b>				
環境の保全に関する協定の締結	環境保全課	一定規模以上の事業を実施するものに対し、「環境の保全に関する協定」の締結を指導しました。締結後は、遵守事項の実施状況について、定期的に報告させます。	平成22年度継続実施します。今後、締結事業場を拡大していきます。	
再資源化しやすい製品の開発の指導	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。	
	ごみ対策課	未実施	平成22年度以降検討します。	
環境保全設備等融資制度の充実	環境総務課	従前の「岡崎市公害防止施設整備資金助成制度」を見直し、公害の防止に加え、エネルギーの有効利用施設などの環境保全施設の整備に活用できる「岡崎市環境対策資金融資あせん制度」を創設しました。利子補給制度の強化を併せて実施しました。	平成22年度以降必要に応じて制度を見直します。	
開発等における事業別環境配慮指針の見直しと提出の徹底	環境総務課	事業別環境配慮指針の検討と結果提出の徹底を図りました。	平成22年度以降必要に応じて指針を見直します。	
開発行為に対して自然環境保全のための助言・指導	自然共生課	一定規模以上の保護区外の開発行為については必要に応じて、自然環境保全上の助言・指導を実施しました。	平成22年度継続実施します。	
<b>●ボランティア活動を支援します。</b>				
ボランティア清掃を始めたエコボランティア活動の推進・支援	環境保全課	6月の第4日曜日(6/28)に県道岡崎環状線+国道248号沿線で実施しました。10月の第4日曜日(10/25)に国道1号+矢作川沿線学区で実施しました。	平成22年度以降も継続実施します。	
資源回収活動の支援	ごみ対策課	地域の各種団体が回収する新聞・雑誌・ダンボール・牛乳パック・古着・アルミ缶の回収量に応じて報奨金を支給しました。平成21年度は集団回収は376団体/1,639回/11,337t、ミニ拠点回収7団体/85回/132tの実績がありました。	平成22年度以降も継続実施します。	
<b>●民間公益団体を育成します。</b>				
市民団体の認定と連携・支援	環境総務課	未実施	平成22年度以降実施を検討します。	

## おかざき水とみどりの森の駅事業

岡崎市には、水道水の50%を占める乙川の水源地と豊かな自然があります。水は、私たち人類を始めとした生き物の命の源であり、その水は緑豊かな自然環境の中で育まれています。また、「自然環境」は、水源涵養のほか地球環境保全機能、防災機能、生物多様性維持、レクリエーション機能、農林漁業等の産業資源として多様な役割を担っています。

「森の駅」事業は、本市における「水資源」と「豊かな自然環境」を将来にわたり継承するため、保全育成し、活用していくことを大きな目的としています。

※ここでの「自然環境」とは、天然の自然だけでなく、田畑や里山など人の手が加わった自然環境も含まれています。



### こども自然遊びの森「わんPark」整備事業

新しい森の駅となるこども自然遊びの森「わんPark」は平成19年度から整備を始め、平成22年10月1日にオープンしました。

この施設は、額田支所の4km東、淡洲町の男川が大きく湾曲した南側の高台にあり、芝生広場・冒険の森・昆虫の森・実りの森・わんぱくハウスで構成され、子どもたちが伸び伸びと安心して自然遊びができる施設です。遊びの自然体験から環境教育へつなげる場所として活用していきます。



どろんこ遊び

虫取り、木登り、どろんこ遊び…、春夏秋冬を通じて、豊かな自然の中で遊ぶことで、木の触感や、昆虫・生き物の不思議・気温の変化・土においなど、「なんだろう?」「どうしてかな」と興味を引出し、自然への“気づき”を促すことで、自然環境について学ばせきっかけづくりをします。

また、けんか・仲直り・協力・妥協・目的達成などをくり返し、子どもたち自らがルールを考え、遊びを造りだす。子どもたちの「やってみたい!」という自主性を重んじる。そんな場所づくりを目指しています。

※市民を対象に実施した愛称募集事業により「わんPark」を愛称として決定しました。



わんParkの管理棟「わんぱくハウス」

### 「(仮称)岡崎市ホタル学校」整備事業

岡崎市におけるホタル保護活動の歴史は古く、ホタルの減少を危惧した美合町生田地区の人々の働きかけにより、ホタル保護活動がスタートし、昭和10年には、「岡崎ゲンジボタル発生地」として国の天然記念物に指定されました。

昭和41年より、河合中学校、生平小学校、秦梨小学校、美合小学校においてホタルの人工増殖に取り組むなど、多くの人々の努力で毎年3万匹の幼虫を川に戻すまでになりました。

旧額田町鳥川地区では、昭和53年頃より地域の人々と子どもたちが小学校を中心としてホタル保護活動に取り組んできましたが、活動の拠点であった鳥川小学校は、平成22年3月を以て閉校となりました。

そこで、鳥川小学校の有効利用を図るとともに、岡崎市全体のホタル保護の取り組みの拠点となるように、体験学習・交流施設として改修することとしました。

平成21年度に整備基本計画を策定し、22年度は実施設計を策定し、平成23年度に展示・建築改修工事を実施し、平成24年度のオープンを目指しています。

### 平成21年度実績

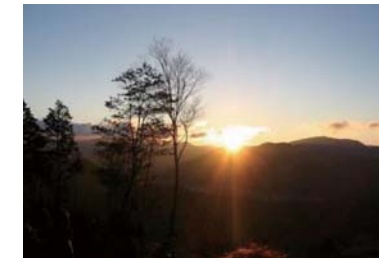
#### 〈森の駅イベント〉

【茅葺の里】  
『田舎暮らし体験』



開催日：随時（10回）  
内容：農業体験、もちつきなど  
参加者：836人

【おおだの森】  
『初日の出を見る会』



開催日：平成22年1月1日  
内容：山頂から初日の出を見る  
参加者：80人

【くらがり溪谷】  
『自然観察会』



開催日：随時（10回）  
内容：植物等自然観察  
参加者：140人

#### 〈活動団体による保全活動等〉

活動場所	活動内容	活動回数(回)	参加人数(人)
おおだの森	植樹、下草刈 散策道草刈等	12	256
くらがり溪谷	遊歩道草刈 流木片付け等	1	8
鳥川ホタルの里	除間伐、カキ殻散布等 登山道整備、看板等設置	11	1,030



おおだの森保全活動

#### 〈環境啓発イベント〉

『わんぱくフェスタ』

開催日：平成21年7月25日  
場所：乙川（井沢町）  
内容：溪谷冒険  
参加者：102人



『おと川リバーヘッド大作戦』

開催日：平成21年11月14日～15日  
場所：千万町町  
内容：間伐、枝打ち、森遊び  
参加者：57人





# 岡崎市一般廃棄物中間処理施設(ごみ処理施設)建設事業

## 施設建設工事

現場での施設建設工事が本格化しました。



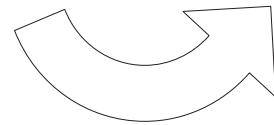
完成予想図

平成19年6月の契約後、平成21年1月に建物本体の建築工事に現地着工した施設建設工事が建設地にてピークを迎え、建物本体の地下及び地上工事や処理施設の心臓部となる溶融炉本体の据付工事などが完了しました。

また、付帯施設(スラグストックヤード棟など)や外構工事にも着工しました。

## 施設建設工事

一年の歩み



平成21年4月現在



平成22年3月現在



地下工事(ごみピット)



地上工事(工場棟)



溶融炉取込状況

## 地域との連携

周辺地域を含む4町(板田町、田口町、高隆寺町、才栗町)で地域対策委員会、環境保全担当者会議を設置するなど地域住民と連携を持って建設を進めていく中で、地元の常磐南小学校児童も現場見学会や植樹会に参加してくれています。



常磐南小学校現場見学会



常磐南小学校植樹会

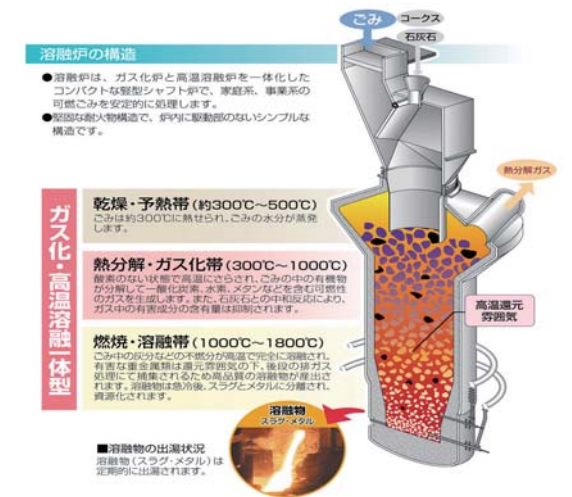
## 事業の概要

本市のごみ処理施設においては、現存の施設の経年劣化やごみの質的多様化などへの対応のため、より高度なごみ処理が可能な施設の整備が急務となっています。現在、焼却によって発生する焼却灰等は、最終処分場で埋め立てをしていますが、今後ごみを処理する過程で溶融を行い、スラグ、メタルに分離回収し、資源として有効活用することが、最終処分場の延命化を図る上でも必要です。

そのため、長期的視野に立った円滑なごみ処理事業の推進を図ることを目的として、平成23年度完成を目指して新しいごみ処理施設の建設事業を進めています。施設の建設事業にあたっては、「安全」と「安定」を柱とし、「安心」できる施設作りを本市の基本理念として実施しています。

処理方式(機種)の選定にあたり、主要な6種類の処理方式(機種)から先の基本理念と「経済性・リサイクル性」の観点、又より詳細な調査と他都市の稼働施設調査により評価を行い、建設審議会等で慎重な審議を経て、最適な処理方式(機種)『ガス化溶融施設(シャフト炉式)』を選定しました。

- 事業場所：岡崎市板田町字西流石地内
- 敷地面積：約7.8ヘクタール
- 処理方式：ガス化溶融施設(シャフト炉式)
- 施設規模：380t/日(190t/日×2炉)
- 処理対象ごみ：可燃ごみ、破砕残さ、焼却灰
- 運転計画：1日24時間の連続運転
- エネルギー利用：発電を中心とした余熱利用
- 煙突の高さ：59m



## 周辺環境整備

「循環型社会形成への一端を担う、新一般廃棄物中間処理施設」は、単なる廃棄物の中間処理施設としてだけでなく、自然を守り、育て、歴史文化を肌で感じられる場として造り上げる必要があると考えます。

さまざまな人々や自然・歴史文化との「ふれあいの場」、生物が安心して生息できる「ビオトープ」等を、中間処理施設を中央に取り囲むように整備します。そして、行き交う人や動・植物がそれぞれの結びつきを深める「拠点」としての役割を果たせるように、施設建設の基本コンセプトである「環境共生共存」を柱とし、周辺環境整備を行っていきます。



## 環境影響評価

事業実施区域及び周辺区域にて平成15年12月から1年間、環境影響評価の現地調査を実施しました。調査結果で得られたデータを基に、各項目において環境保全措置を講ずることを前提として、工事の実施及び施設の存在・供用による周辺環境に与える影響を予測・評価しました。周辺環境への影響については、環境保全措置を適切に講ずることにより、できる限り回避・低減が図られているものと判断しました。

### 新一般廃棄物中間処理施設(ごみ処理施設)建設事業

八帖クリーンセンター(2号炉)及び中央クリーンセンターに代わる施設として、平成23年度完成を目指し新施設建設の計画を推進しています。

- 事業場所 : 岡崎市板田町字西流石地内
- 敷地面積 : 約7.8ヘクタール
- 処理方式 : ガス化熔融施設(シャフト炉式)
- 施設規模 : 380t/日(190t/日×2炉)
- 処理対象ごみ : 可燃ごみ、破碎残さ、焼却灰
- 運転計画 : 1日24時間の連続運転
- エネルギー利用 : 発電を中心とした余熱利用
- 煙突の高さ : 59m



### 総合検査センター 夏休み子ども教室

夏休み期間中に市内の小学校4~6年生を対象として、環境問題に関する意識の高揚を図るための学習教室を開催しています。

【平成21年度】

開催日	コース名	参加者
8/4	たいきコース	28人
8/5	みずコース	30人
8/6	えいせいコース	20人



### 中央クリーンセンター リサイクルの日

ごみ減量とリサイクルを推進するために、中央クリーンセンターのリサイクルプラザにおいて、資源物のリサイクル、家具・自転車の再生品の展示販売、廃ガラスを利用するガラス工芸講座などを行い、毎月第4日曜日を「リサイクルの日」として、施設を一般開放しています。

【平成21年度】

入場者数	3,378人
サンドブラスト利用者	624人
吹きガラス利用者	32人
再生家具販売数(応募総数 2,220件)	242点
再生自転車販売数(応募総数 2,316件)	240点

### 北山湿地

市の中南部にある北山湿地は古くから残る自然湿地です。特有の植物や昆虫が生育・生息しており、環境省の「日本の重要湿地500」に選ばれています。この湿地を自然遺産として後世に残すとともに、市民の自然とのふれあいの場として整備するために、市民団体と協力して、定期的な保全活動を行っています。



【平成21年度】

市民団体による保全整備 : 12回実施  
観察会 : 3回実施 51人参加

### 烏川ホタルの里湧水群

平成20年6月、環境省は水環境保全の一層の推進を図るため、「平成の名水百選」を選定しました。愛知県からは犬山市の八曾滝とともに、岡崎市烏川ホタルの里湧水群が選ばれました。



### おかざき水とみどりの森の駅

#### おかざき自然体験の森(八ツ木町)

里山の自然環境の中で、様々な自然体験・環境学習プログラムを用意しています。



【平成21年度】

総入場者数 : 19,287人  
〈環境教育プログラム〉200回実施 2,472人参加

(問合せ先) 0564-45-5544  
(詳しくは) <http://www.sizentaiken.jp/>

#### 茅葺の里(千万町町)

山奥の茅葺民家の囲炉裏や縁側でのんびり。そば打ちや田植えなど田舎暮らし体験が満喫できます。宿泊もできます。(要予約)



【平成21年度の主な実績】

〈田舎暮らし体験〉10回開催 836人参加

(問合せ先) 0564-83-2590

#### こども自然遊びの森「わんPark」(淡洲町)

「水とみどりの森の駅」の新しい駅となる「わんPark」が平成22年10月1日にオープンしました。この施設は、額田支所の4km東、淡洲町の男川が大きく湾曲した南側の高台にあり芝生広場や泥んこプールを始め、子どもたちが伸び伸びと安心して自然遊びが体験できる施設です。

【施設概要】

芝生広場  
冒険の森  
昆虫の森  
実りの森  
わんぱくハウス



(問合せ先) 0564-82-3511

#### くらがり溪谷(石原町)

男川の源流になる清流で、ハイキングやマス釣り、バーベキュー、自然観察など多彩なアウトドアライフが思う存分楽しめます。



【平成21年度の主な実績】

〈自然観察会〉10回開催 140人参加

(問合せ先) 0564-83-2057

#### 森の総合駅(榎山町)

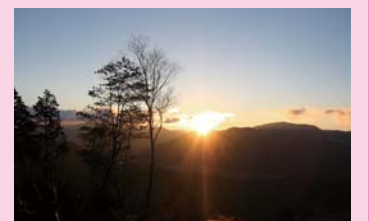
森の駅のすべてを知ることができる「森の駅」の総合案内所。「森のギャラリー」では自然にかかわるアートの展示や物づくり体験イベントなどを実施しています。



(問合せ先) 0564-82-2511  
(詳しくは) <http://www.morinoeki.jp/>

#### おおだの森(榎山町・夏山町)

市民の手で、おおだ山にヤマザクラやモミジの植栽をしたり、森の手入れをしたり。自然散策や山頂からの展望も楽しめます。



【平成21年度の主な実績】

〈初日の出を見る会〉80人参加

(問合せ先) 0564-23-6921

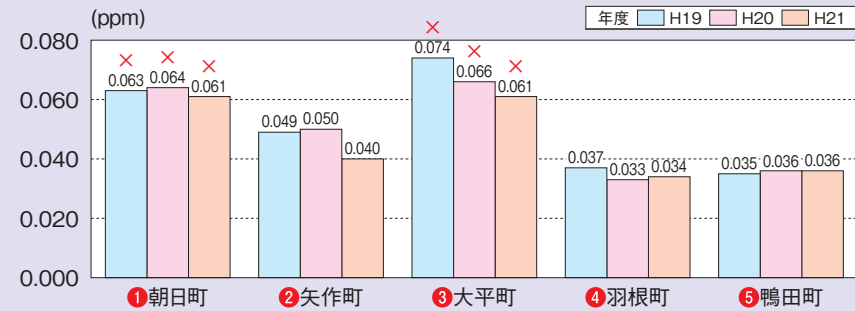
## 大気汚染の現状

# 岡崎市の環境の状況

### ●環境基準とは●

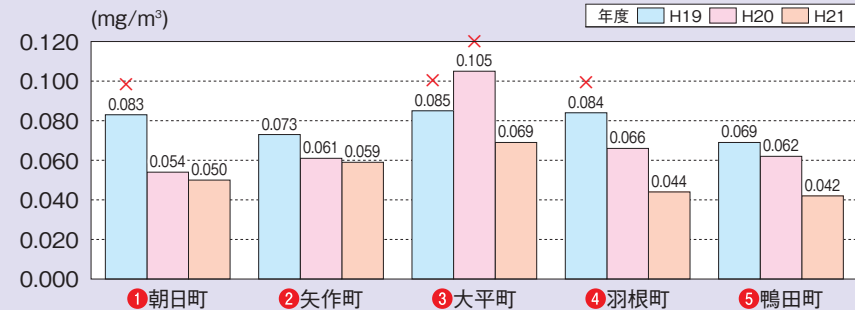
環境基本法で「人の健康の保護及び生活環境を保全するうえで、維持されることが望ましい基準」、ダイオキシン類対策特別措置法で「人の健康を保護するうえで、維持されることが望ましい基準」として、大気、水、土壌、騒音、ダイオキシン類をどの程度に保つかという目標を定めたものが環境基準です。環境基準は「維持されることが望ましい基準」であり、行政上の政策目標です。これは、人の健康等を維持するための最低限度としてではなく、より積極的に維持されることが望ましい目標として、その確保を図っていくとするものです。

### ■大気汚染常時測定調査結果(二酸化窒素)

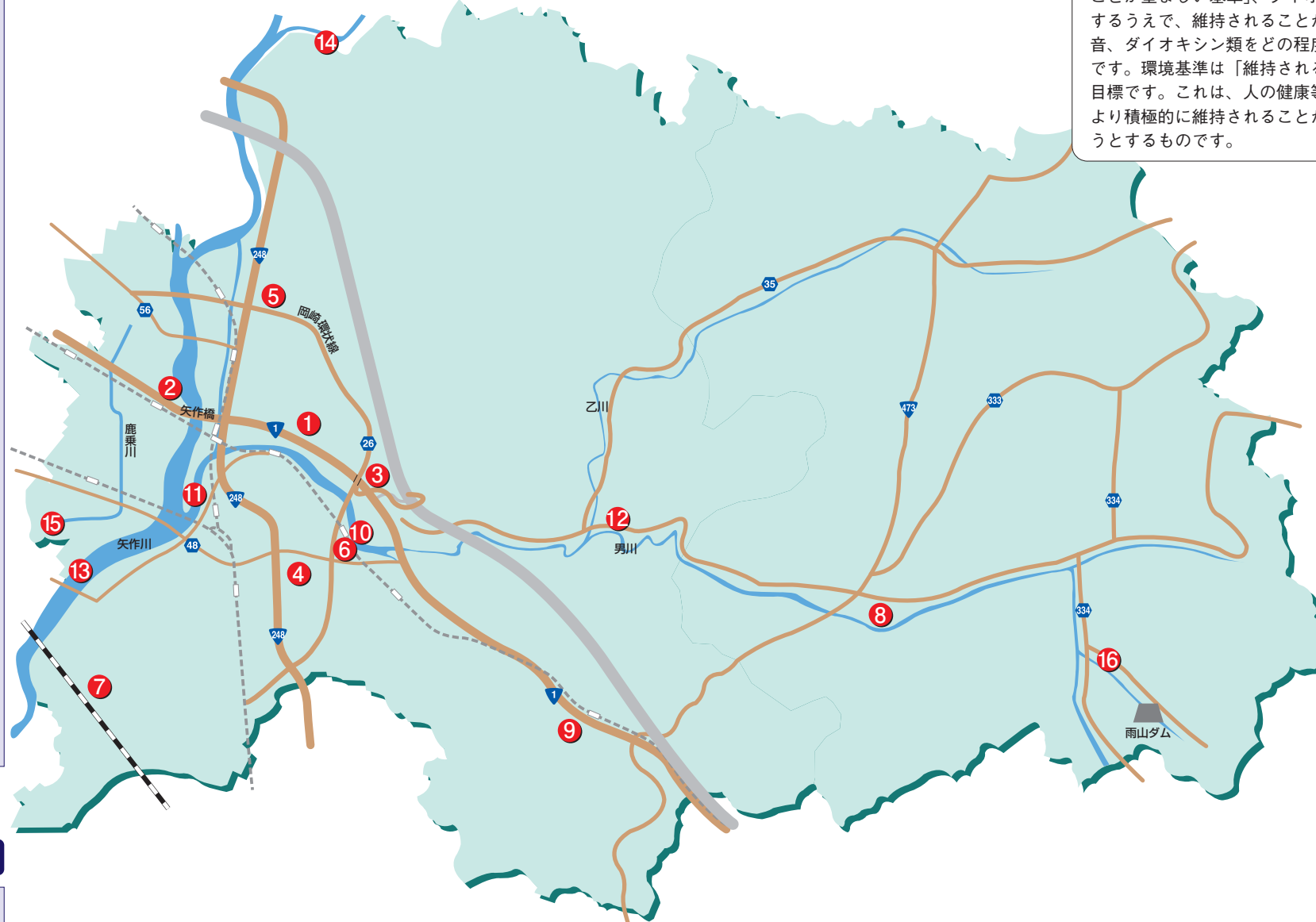


環境基準…98%値が0.06ppm以下。  
 ×の数値については、環境基準が達成されなかったことを示します。  
 二酸化窒素…主に自動車や工場の排気ガスに含まれています。  
 ppm…100万分中のいくつであるかを示す分率で、ごく微量の物質の濃度や含有率を表すのに使われます。  
 大気汚染では1m<sup>3</sup>の大気中に1㎍の物質が含まれる状態を表します。(parts per million)  
 98%値…年間における1日平均値のうち、低い方から98%に相当する値です。

### ■大気汚染常時測定調査結果(浮遊粒子状物質)



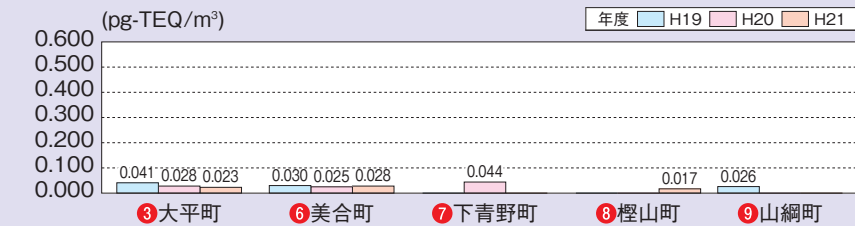
環境基準…2%除外値が0.10mg/m<sup>3</sup>以下、ただし1日平均値が0.10mg/m<sup>3</sup>を超えた日が2日以上連続しないこと。  
 ×の数値については、環境基準が達成されなかったことを示します。  
 浮遊粒子状物質…大気中に浮遊している物質のうち、粒径10ミクロン(100分の1ミリ)以下のものをいいます。  
 2%除外値…年間にわたる1日平均値である測定値につき、測定値に高いほうから2%の範囲内にあるものを除外した値です。



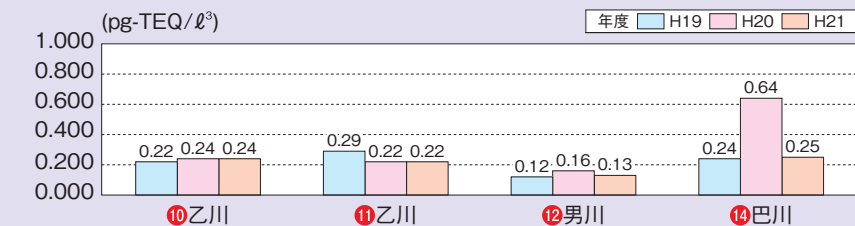
- 1 朝日町 (朝日大気測定局)
- 2 矢作町 (矢作大気測定局)
- 3 大平町 (大平大気測定局)
- 4 羽根町 (羽根大気測定局)
- 5 鴨田町 (鴨田大気測定局)
- 6 美合町 (総合検査センター)
- 7 下青野町 (六ツ美市民センター)
- 8 櫻山町 (森の総合駅)
- 9 山綱町 (東部市民センター)
- 10 乙川 岡崎市上水道取入口
- 11 乙川 占部用水取入口
- 12 男川 学校橋
- 13 矢作川 美矢井橋
- 14 巴川 細川頭首工
- 15 鹿乗川 東鹿乗川橋
- 16 雨山川及び乙女川下流 ツノジ橋

## ダイオキシン類調査結果

### ■大気環境調査結果



### ■水質環境調査結果

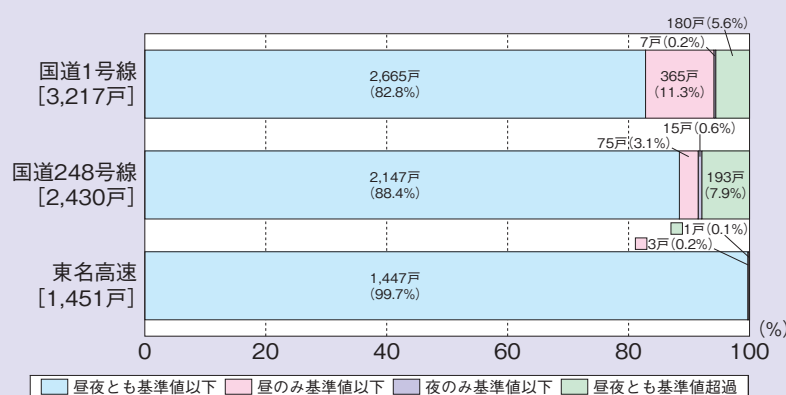


ダイオキシン類…ダイオキシン類対策特別措置法において、有機塩素化合物のポリ塩化ジベンゾ-p-ダイオキシン(PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)、コプラナーポリ塩化ビフェニル(Co-PCB)をダイオキシン類と定義しており、物の燃焼等の過程で非意図的に生成します。ダイオキシン類の毒性は、一般毒性、発がん性、生殖毒性、免疫毒性など多岐にわたっています。  
 pg-TEQ…pg(ピコグラム)とは、1兆分の1グラムを表しています。また、TEQとは、「毒性等量」と表現し、200以上存在するダイオキシン類について、それぞれの毒性の違いを同じ毒性に換算することをいい、その量を表す単位がpg-TEQです。

## 自動車騒音の現状

### ■自動車騒音に係る環境基準の達成状況(平成21年度)

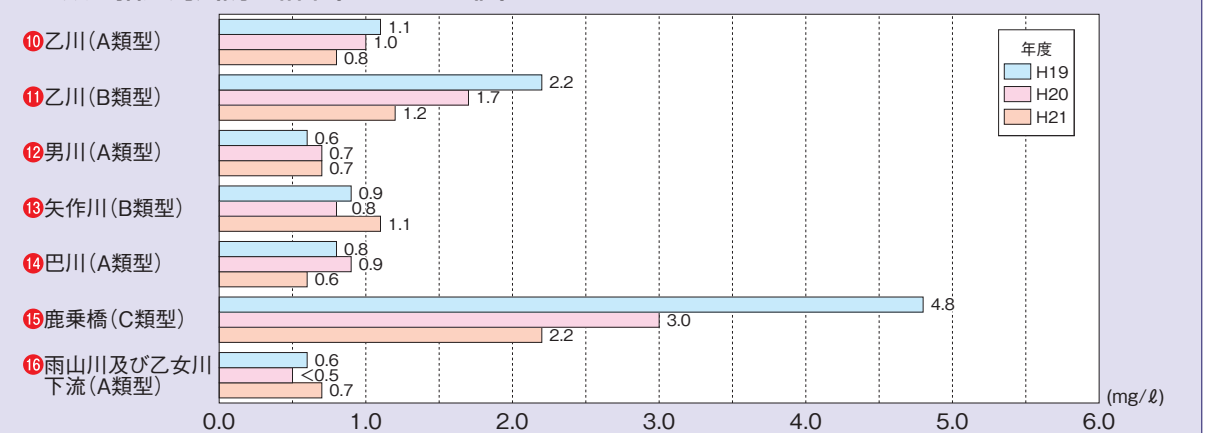
道路を一定区間ごとに区切って評価区間を設定し、評価区間内の代表する1地点で騒音測定を行い、その結果を用いて評価区間内の道路端から50m範囲内にあるすべての住居等について等価騒音レベルの推計を行うことにより環境基準を達成する戸数とその割合を把握しています。このことを面的評価といいます。



[ ]内は評価対象住居戸数  
 %の合計値は、四捨五入の関係で合わないことがあります。

## 河川の水質の現状

### ■類型指定河川調査結果(BOD75%値)

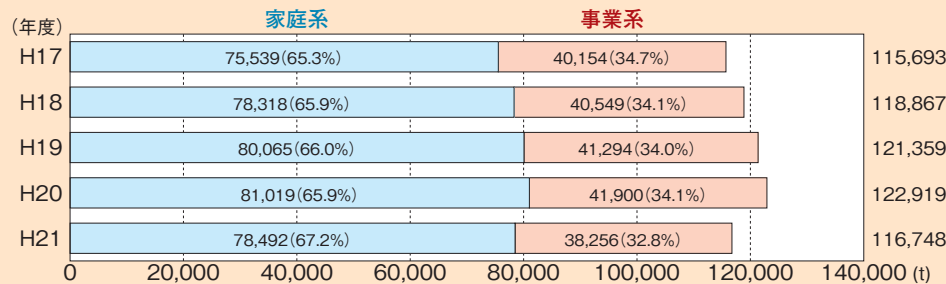


平成21年度調査では、類型指定がされている全ての地点においてBOD75%値について環境基準を満たしていました。  
 類型指定…国において類型別に環境基準の基準値が示され、これに基づき県が河川等の状況等を勘案し、地域にあてはめて指定します。このことを類型指定といい、AA、A、B、C、D、Eの6段階の類型があります。  
 BOD75%値…BODとは、水中の汚れ度合いを示す指標で、水中の有機物が一定期間、一定温度で、微生物によって酸化分解されるときに消費される酸素量のことです。この数値が大きいほど、水質が汚濁していることを意味します。75%値とは、年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べて75%目にあたる値を75%水質値といいます。年間を通じて環境基準に適合していたか否かを判断する場合に75%水質値を用います。

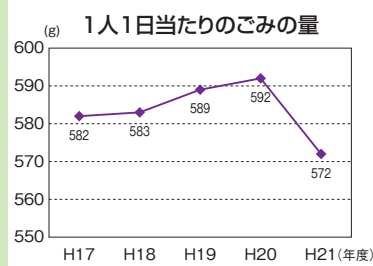
## 本市のごみ事情

本市では、増え続けるごみを減らすために、家庭系ごみの減量施策として、粗大ごみの有料戸別収集（平成13年4月～）、3分別（紙製容器包装・ペットボトル・プラスチック製容器包装）の分別収集（平成14年1月～）を実施しました。また、事業系ごみの減量施策として、古紙類の規制（平成15年10月～）を行いました。

### 家庭系・事業系比較



### 【家庭から出たごみの量】 (平成21年度)

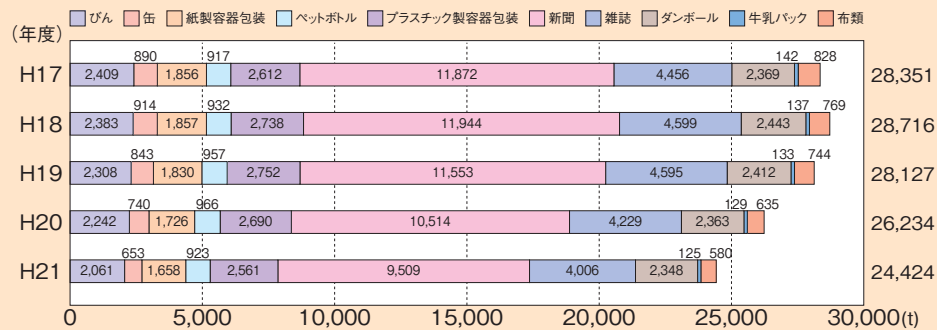


【1人あたりのごみの量】  
209kg  
【1人1日あたりのごみの量】  
572g

【1年間のごみの量】  
78,492t  
【1日あたりのごみの量】  
215t

平成22年度の1人あたりのごみ処理負担額(資源等含む)は、**9,183円**  
(ごみ処理に要する経常経費の予算額から積算)

### ごみ分別による資源物量

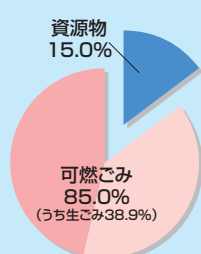


## 平成21年度ごみ質分析結果

★ごみの中には資源になる物が多く含まれています★

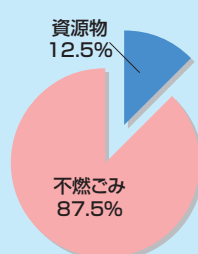
家庭系ごみ質分析結果(ごみステーション分析結果)(重量比)

### 【可燃ごみ】



資源物	重量比
新聞(チラシを含む)	2.4%
雑誌	3.9%
ダンボール	0.9%
牛乳パック	0.3%
紙製容器包装	2.2%
布・繊維類	1.9%
ペットボトル	0.3%
プラスチック製容器包装	3.1%

### 【不燃ごみ】



資源物	重量比
ペットボトル	0.4%
プラスチック製容器包装	3.2%
スチール缶	1.9%
アルミ缶	0.4%
空きびん	0.1%
その他の飲料びん	6.5%

**古紙類・古着類 (9.4%)**

資源になる古紙類・古着類が多く混入されています。

地域の資源回収  
市役所・支所・回収協力店等の  
拠点回収へ

**生ごみ (38.9%)**

可燃ごみの約半分(38.9%)は生ごみです。生ごみを減量すれば可燃ごみの半分が減量できます。

- 生ごみを出すときは、よく水を切ってから出しましょう。
- できるだけ生ごみを出さないように上手に料理をしましょう。

生ごみ処理機を使って生ごみをリサイクルしましょう

本市では生ごみ処理機の購入に対して、最高18000円の補助金を出しています。

**プラスチック類 (可燃ごみ全体の3.1%、不燃ごみ全体の3.2%)**

プラスチック製容器包装の混入が目立ちます。

上のグラフは重量比のため、可燃ごみの中のプラスチックは約3%と一見少なく見えますが、容積比にしてみるとプラスチック製容器包装は可燃ごみの17%を占めています。

きれいにできるものはプラスチック製容器包装として出しましょう  
買い物袋を持参してレジ袋を断りましょう

協力加盟店で、レジ袋を断るとエコシールがもらえます。エコシールを集めると協力店で金券として使えたり、環境にやさしい製品と交換ができます。

## 環境教育・環境学習

### ○おかざきエコプロジェクト

地域の自然を大切にすると環境を守るために行動する力を育むことを目的とした、幼児の環境教育プログラム「おかざきエコプロジェクト」を実施し、公立幼稚園・保育園の環境学習を積極的にお手伝いしてします。



【平成21年度】89回実施：2,412人参加

コース	実施場所	内容・期待する効果	実施(回)	参加(人)
森のめいたんてい	おかざき自然体験の森	葉っぱから土になる仕組みを探って自然の循環に気づき、自然を大切に行動につなげます。	32	756
川のいきものハカセ	園近くの川	身近な川の生き物を調査して川の汚れに気づき、きれいな川を守る行動につなげます。	22	420
リサイクルだいさくせん	園内	分別・リサイクルゲームで「きれいなまち」をつくり、ごみ拾い・分別・再利用の行動につなげます。	15	480
もったいない	園内	好き嫌い・食べのこしをしないことによりごみ処理の流れを理解し、地球を守る行動につなげます。	20	756

※対象：市内の公立保育園・公立幼稚園の年長児

### ○小中学校における環境教室

小中学校における環境教育をより効果的に進めるために、市職員又は地球温暖化防止隊の会員を講師として派遣しています。平成21年度は、新しいコース「バスエコ教室」を設け、交通と環境を考える機会にするなどコースの見直し、拡充を図っています。



【平成21年度】  
72回実施：2,570人参加

コース	実施(回)	参加(人)
我ら地球温暖化防止隊	1	39
バスエコ教室	1	54
ごみとリサイクル	6	281
わたしたちと水	21	814
そらをきれいに	1	35
産業廃棄物ってなに!	1	55
川の生き物から学ぶ川の汚れ	13	386
自然から学ぼう!	1	24
知っていますか?外来生物	2	32
エコマンダーの時間	25	850

### ○地域における環境学習

環境について自主的に学び、実際に行動するきっかけとしていただくために、地域住民、地域団体などを対象とした環境学習を実施しています。

市職員や地球温暖化防止隊の会員が講師となり、参加体験型の学習の機会となるように工夫しています。

【平成21年度】  
参加団体：延べ21団体・2事業所 参加者：延べ983人

### ○未来環境創造戦士エコマンダー

これからの世代を担う子どもたちが環境に興味を持ち、環境教育に大切な“気づき”、“学び”、“行動する”などのきっかけづくりとするために、平成18年11月、岡崎市の環境を守るニューヒーロー「未来環境創造戦士エコマンダー」が誕生しました。

環境に関するイベントでのショー、保育園での環境教育の場などで、子どもたちに熱い思いを伝え続けています。



【平成21年度】  
「未来環境創造戦士エコマンダー」ショー：6回  
おかざきエコプロジェクトへの出演：54回1,656人参加  
小中学校環境教室「エコマンダーの時間」：25回850人参加

